

# 市民記者のページ



おおどまり ともこ 大泊 知子 さん(黒子)

人の温かな繋がりと、支援したい気持ちから生まれる連携の素晴らしさに感動しました。

うちでは使わないけれど、捨てるのはもったいない。そのように思ったことはありませんか。自分に不要なものが誰かの役に立つ、人や物に優しい活動、それがフードパントリーです。令和3年に発足した、県西エリアで生活サポートと食品ロスなどの課題に取り組む任意団体「県西フードパントリー」の活動について、代表の飯島勝枝さんと会員の箱守まり子さんに話を伺いました。

**直接顔を合わせて活動したい**

フードパントリーとは、個人や企業から寄付された食品や日用品などが必要とする人に配付する活動のことを指します。飯島さんがこの活動に興味を持ったのは、昔と比べてひ

## 県西フードパントリー

想いを集めて大きな支援に



飯島代表(左)と箱守さん(右)

とり親家庭が多くなり、生活支援の必要な人が増えていると感じたことがきっかけだといえます。その後、自分が続けられる支援の方法を模索し、寄付してくれる人に感謝を直接伝え、人と人の繋がりを大切にしながら、生活支援が必要な人にとって身近な存在として活動する同団体を発足。主にひとり親家庭を支援し、現在は16人の会員と高校生を含むボランティアで活動しています。

集めた食品や日用品は約1週間分に仕分けし、子どもたちの長期休暇に合わせ、年に3回配付しています。利用者からは「子どもが休みの期間はいつもより食費がかさむので

助かる」と感謝の声が届いているそうです。

**まだまだ支援不足  
多くの寄付を募集中**

活動を始めて一番困ったのは支援物資の保管場所だそうで「広沢商事さんが倉庫を無料で貸してくれたことで、物資が保管できるようになり、大変助かっています」と飯島さんは笑顔で話します。

沢山の支援に感謝する一方、箱守さんは「市内のスーパーや企業から廃棄予定の食品や寄付をいただいています。ティッシュ、おむつなどの日用品や子ども服、また入学シーズンには学用品を必要とする人が多く、支援が追いつかない面もあります。多くの人の関心を持っていただき、個人の寄付と共に企業からの支援をお願いしたいです」と話しま



声をかけながら食品を手渡しする様子

す。飯島さんは「今後も支援を必要とする人に確実に届けたいです。お子さんが成長して自立し、支援なしでも生活できるようになったら、今度は支援者として活動に参加して、次の世代に温かい繋がりを引き継いでほしいです」と活動の未来に期待を寄せています。

### 取材を終えて

取材を通じて、寄付された食品で期限が短いものも子ども食堂に提供するなど、1つも無駄にしない姿勢を見習いたいと思いました。みなさんも、自宅で使われずに眠っている食品や日用品を必要とする誰かへ届けてみませんか。

▼県西フードパントリーについて詳しくはこちら

